

ときい洋治と一緒に創ろう！ ふるさと笠間市の輝く新時代



「地元の要望に応じて」

ときい洋治議員は、皆様からの要望を受けて、ご協力を得ながら、実現に向けて一緒に行動してきました。その一部を紹介します。

〈県の対応状況〉
◎決定又は実行済
○進行中又は要望済

友部地区

- 環状道路宿大沢線の早期整備 (◎)
・宿大沢線の鴻巣跨線橋～しまむら前がH22年3月全線開通済
- 国道355号穴戸橋架替え整備 (○)
- 酒沼川常磐線鉄橋上流部の改修 (○)
- 県道大洗友部線 (橋爪地区) の拡幅改良 (○)
- 友部駅前通り (県道平友部停車場線) の整備
①福祉の町の玄関口にふさわしい、人にやさしい道路に改良 (駅前340m区間の車道切下げ、歩道整備等) (◎)
②旧畜産試験場・第二小学校前の交差点改良 (右折車線設置と町道拡幅・歩道設置) (◎)
- 県道杉崎友部線の整備
①国道50号線～小原地区の改良 (◎、○)
②小原地区バイパスの整備 (◎、○)
③小原地区の排水U字溝敷設 (◎)
④大田町内 (松山団地地下～大工町踏切) 小・中学生の通学路安全対策 (歩道確保と路面水排水) (◎)
⑤大田町内水戸坂の街路灯の設置 (◎)
- 信号機設置要望
①県道石岡城里線 (友部町柏井区内) ゆかいふれあいセンター入口 (◎)
②県道杉崎友部線 (松山団地入口、セイコマート前) (○)
③宿大沢線、友部小通学路 (○)
- (旧) 総合流通センター関連道路の整備促進
①茨城中央工業団地との連結道路がH22年3月に開通 (◎)
②石岡城里線バイパスの整備 (○)
- 酒沼前川、酒沼川の管理
①酒沼前川の小原地区・市原地区の除草、河床浚渫と堤防崩壊箇所改修 (◎、○)
②酒沼川の住吉地区堤防の除草 (◎)、竹木の伐採 (湯崎、仁古田) (◎)
- 酒沼川大古山橋架替え整備促進 (国庫補助) (◎)
- 県道大洗友部線の整備
①長兎路～住吉、仁古田地区道路改良及び交差点改良 (◎、○)
②仁古田～野曾間の道路改良 (○)
③友部IC～穴戸小学校前までの整備 (◎)
- 国道355号友部IC出入口 (両側1,140m) の4車線化事業の推進 (◎)
- 県と町が一体となった友部町内道路網の再編整備計画の策定 (◎)
- 旭団地入り口と二中入り口 (ジョイフル山新脇) の信号機設置 (◎)
旭町の岩間街道「本材材木店」脇の交差点改良 (角切り) (◎)
- 畜産試験場跡地活用
①県の単純一括売却方針を転換させ、地元地域振興の観点からの検討を開始させた (◎)
②地元地域住民の意見反映のしくみづくりを提唱 (◎)
③暫定利用を実現
・景観、美観保持のため、地元酪農家の草地として利用 (◎)
・地元幼稚園、小学校の校外学習の場として利用 (◎)
・友部リトルリーグの野球練習場として利用 (◎)
・フィルムコミッションの撮影地として利用 (◎)
④(新) 笠間市合併支援策として跡地を活用 (新市建設計画に位置づけた) (◎)
⑤県の利活用方針のための勉強会を開催し、原案を作成 (◎)
⑥一部を公園 (広場) として暫定利用、「みどりの広場」 (◎)
- 茨城中央工業団地 (笠間地区) (旧総合流通センター) の整備促進
①進出企業アンケート調査実施など具体的推進方策 (◎)
②予定地の防災、防犯対策のための草刈り実施 (◎)
③予定地内に、通学安全確保のために防犯灯設置 (◎)
④防火帯をつくり、クローバーの種を蒔いた (◎)
⑤農地・市民農園としての暫定利用実現 (◎)
- 岩間ICから友部駅方向への道路案内の明確化 (仁古田十字路口付近への案内板設置など) (◎)
- 旭平1区への県コミュニティ助成金交付 (◎)
- 友部リトルリーグへの日生財団からの助成金交付 (◎)
- 穴戸野球スポーツ少年団 (現、友部フェニックス) への日生財団からの助成金交付 (◎)
- 県立中央病院の救急医療体制の充実と高度医療化など
①県立中央病院への心臓血管外科を開設して、心筋梗塞などの心臓疾患の全てに外科手術も対応できるようにする (○)
②県立中央病院一帯を「医療・福祉ゾーン」として再編整備して、医療・福祉のメッカとして諸機能を充実させる (○)
③災害拠点病院としてヘリポートの設置 (建設中) (◎)
④救命救急センターの設置 (○) - 近い将来の実現を明言
⑤極早期がん発見が可能なCT付きPET (陽電子放射断層撮影装置) が、H18年3月から稼働 (◎)
⑥患者の転院先などの相談に応じる医療ソーシャルワーカー (MSW) を2名増員 (◎) - 現在は8名
⑦産科・小児科入院の早期再開 (○)
⑧人工透析センター・化学療法センター・放射線治療センターの設置 (◎)
⑨救命センターの設置 (建設中) (◎)、ヘリポートの設置 (建設中) (◎) - 近い将来「救命救急センター」開設、ドクターヘリの運航へ
- 県立友部病院の整備充実
①全面改築の実現 - 23年の開院を目指して工事中 (◎)
②児童・思春期専用病棟「つくし」の実現 (◎)
③筑波海軍航空隊の遺品等を常設展示する木造施設の実現 (◎)
④全面改築に地元のみかげ石や笠間焼を使用 (◎)



住民から要望があると、必ず現場で一緒に調査、徹底した現場主義。車のトラックには、いつも長靴と作業服、カッパを常備。

岩間地区

- 巴川 (常磐線交差点部分) 河川改修と本格的改良促進 - 岩間南部土地改良区 (◎、○)
- 巴川 (福島区内、第3機場付近) 河川改修 - 巴川第一水利組合 (◎)
- 県道南指原岩間停車場線通行不能道 (長沢区～吾国山洗心館) の解消 (◎、○) - 民地買収は終了
- 県道上吉影岩間線の整備
①柗山地区危険箇所解消 (◎)、大笹立橋までの全線拡幅 (○)
②岩間消防署前の改良実現と未改良部分の早期実現 (◎)
- 県道石岡城里線 (安居区内) の改良促進と同バイパス (総合流通センター関連道路) 予定地の用地買収の具体化 (◎、○)
- 百里飛行場民間共用化のアクセス道路として岩間IC～百里の直結道路の実現化 (◎、○)
- 国道355号石岡岩間バイパスの整備促進 - H22年2月全線開通済 (◎)
- 国道355号の整備
①上町、仲町、栄町地区の舗装改修 (下水道工事後のオールカバー)
②栄町区内通学路安全のための草刈り (◎)
③上町、仲町、栄町地区内の側溝清掃 (◎)
④市野谷地区内の全面的路面整備による歩道部確保 (○)
⑤市野谷地区コメリ付近の道路階段差の解消 (◎)
- 信号機設置要望
①柗山から海洋センター入口地点 - 設置に向けて道路を整備中 (◎、○)



県職員時代の先輩・同僚である県庁の幹部に地元の要望、腰は低い、足と熱意で実現する。地元の営業マンに徹している。

- 小原地区の農業基盤整備 (畑地帯総合整備事業) の促進、大幅予算化 (◎)、県営経営体育成基盤整備事業の22年度採択 (◎)
- 霞ヶ浦用水Ⅲ期の早期完成に向けた大幅予算化 (市原、小原、友部中央、随分附、北川根の各地区) (◎、○)
- 五平地区小沢眼科医院付近の街路灯、横断歩道の設置 (◎)、歩道の設置 (○)
- 湯崎地区二所神社の境内林の間伐 (森林湖沼環境税を活用) (◎)
- ②上押辺 (旧) 平安閣前海洋センター入口 (◎)
- ③市野谷地区の福島方面へのT字路 (○)
- ④国道355号石岡岩間バイパスの通学路 (○)
- 岩間街道土師十字路の改良による危険箇所の解消と桜井橋 (桜川) への歩道付設 (◎、○)
- 土師地区内、酒沼川、桜川合流点からの逆流による水田冠水対策 (測量調査と対応策) (◎、○)
- 随光寺川、桜川 (上郷地区) のたい積土砂の除去、えん堤崩壊箇所の改修 (◎)
- 酒沼川、桜川の整備
①両河川の合流地域 (土師、押辺地区) の水害防止対策 (○)
②河川内の竹木の伐採 (土師、上・下押辺地区) による流れの円滑化 (◎)
③安居地区の水害防止対策 (○)
- 上安居地区 (県道茨城岩間線) の常磐道との交差点のずい道への照明灯設置 (◎)
- 下押辺区内の新池の土堤改修実施と日本道路公団からの補償 (○)
- 岩間離子保存連合会への県コミュニティ助成金交付 (◎)
- 泉離子保存会への県コミュニティ助成金交付 (◎)
- スポーツ少年団剣道部への日生財団からの助成金交付 (◎)
- 栄町地区、上町地区への県コミュニティ助成金交付 (◎)
- 公民館建設への県コミュニティ助成金交付
①上押辺区 (◎) ②旭町西区 (◎) ③新渡戸区 (◎)
④福島区 (◎) ⑤下安居区 (◎)
- 日吉町地区内の危険な県道敷内電柱の撤去 - 歩行者の安全確保 (◎)
- 土師地区の水田用水路の敷設替え (1,300m) (◎)
- 下安居地区のため池 (道明池) のろう水防止対策 (◎)
- 小島地区農業用排水路の整備 (◎)
- 国道355号石岡岩間バイパス開通に伴う農道の安全確保 (◎)
- 常磐線春日町踏切の拡幅と県道上吉影岩間線の拡幅 (○)

笠間地区

- 国道355号笠間バイパスの整備促進 (◎、○)
- 本戸地区南指原川のたい積土砂の除去 (◎)
- 福田地区酒沼川のたい積土砂の除去 (◎)

笠間地区の皆さん、これからは、地域の課題をどしどし要望してください。常井議員は、一緒に考え、共に行動して実現に努めます。

要望を実現へ



水戸土木事務所、地元の要望を幹部の皆さんに説明。(16年6月)

国道355号石岡岩間バイパス全線開通式にて。(22年2月)



▲宿大沢線 (友部環状道路) 全線開通で友部小マージングバンドの皆さんと。(22年3月)



▲常井議員が一貫して主張してきた早期がん発見の診断装置CT付きPETが県立中央病院に導入。(18年3月)



▲友部SAでETC専用インター社会実験の初日に利用。(17年7月)



▲寒風の中、岩間地区随光寺川の土砂たい積の調査。(15年1月)

皆さんといっしょに



▲友部町少年相談員などボランティアの皆さんと年末防犯パトロール。(15年12月)

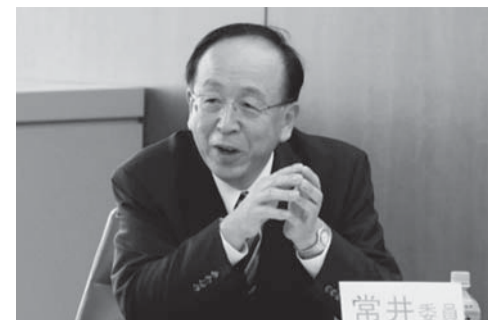


▲笠間大橋の開通式にて。(22年3月)



▲小原 - 池野辺 (市道1級3号線) の一部開通式にて。(22年3月)

「とい洋治議員、数多くの施策を実現！」



常井洋治議員は、3期12年に亘り、委員会で連続して質問を重ね、多くの提案をしてきました。それを契機として実現された施策の中から、代表的なものを挙げてみました。

行財政改革・県庁改革

- 1. **IT革命への柔軟な対応を**
IT革命に対応して、職員は、中途採用で専門的な人材の確保など柔軟な対応が必要だ。(2000.1.20)
(任期付職員採用として、NTTから専門職員を採用した結果、約17億円の経費節減ができた。)
- 2. **税金債権取り立てから強制執行まで行う体制の整備を**
県税の時効による未済額が平成10年度で2万1,000件、3億1,500万円になっている。税負担の公平性の観点から、債権取り立てから強制執行まで行う体制をつくるべきだ。(2000.1.19)
(「茨城租税債権管理機構」が設置され、大きな成果をあげている。)
- 3. **工業団地販売にプロの活用を**
工業団地分譲のセールスは、不動産屋さん、ゼネコンなどをフルに使って成功報酬を払う仕組みでやるべきだ。役人のOBが背広でセールスするやり方だけではだめだ。(2000.11.21)
(県宅建協会との販売手数料協定が実現。現在では、情報提供者の個人も対象に報酬を支払っている。)
- 4. **臨床医を行政スタッフとして配置を**
県民の命と健康をあずかる県庁の保健福祉部には、現場感覚のある臨床経験のある医師を行政スタッフとして配置しておくべきだ。(2000.9.13)
(中央病院の臨床医を保健福祉部に配置した。その後、病院局で1名配置している。)
- 5. **障害者の表記を改めるべき**
「障害者」という言葉を通常使っているが、日本語に対する素朴な疑問がある。「障害のある方」というように変えていくべきだ。英語では何というのか。(2001.3.13)
(英語では「challenged」という。神から挑戦という使命を与えられた人たちがという意味、との答弁があった。最近になってやっと、「障がい者」と変更しようとする動きがでてきた。)
- 6. **工事看板の表示を改めるべき**
工事現場の看板の表示を全面的に改めるべきだ。県費補助の市町村事業も含めて、県民の税金がどのように使われているかという視点から工夫が必要だ。(2005.11.14)
(表示方法が大きく変更されたが、未だ不十分と考えている。)
- 7. **県庁舎展望ロビーの年末年始開放を**
新県庁舎の25階展望ロビーを年末年始も県民に開放すべきだ。(1999.3.3)
(納税者の視点に立った私の提案どおり県民に開放され、「御来光議員」とも新聞では取り上げられた。)
- 8. **県庁前バス停にベンチ設置を**
行財政改革大綱では、県民サービスの改革をうたい、気づきによる自己改革、来庁者に親切な対応をしようとしている。新県庁になって6年になるが、玄関前のバス停にベンチ一つ置いていない。誰も気づかないのであろうか。(2005.10.13)
(バス停に初めてベンチが設置され、利用されている。)
- 9. **県庁25階にお土産売り場を**
県庁25階の展望塔へ、最近では、デイケアサービスのお年寄りも来るようだ。おみやげを買いたいと思っても、国会見学のようなおみやげが売っていないと言っている。(2005.10.13)
(25階にお土産コーナーを置き、生協売店への案内も始めた。)
- 10. **県出版物に理想の家族像を描くべき**
今の人口を維持するには、2.08人の合計特殊出生率が必要だと言われている。県の出版物のイラストには、現実とは少々違って、子供が3人か4人の家族像を示し、こんな家族が出来たらいいねというような県民向けの発信があってもいいのではないかと。(2000.8.22)
(最近、多数子のイメージを表示した県の刊行物が増えてきた。)
- 11. **県ホームページを使いやすく**
県のホームページは、ワンストップ方式で、見たいところに行き着けるような仕組みに全面改修すべきだ。「おはよう茨城」もホームページで見られるようにすべきだ。(2005.10.13)
(常井議員も参画して、2006年6月に県のHPを全面リニューアルした。その結果、「アックゼロヨン・アワード2006」に入賞した。「おはよう茨城」は著作権の問題で継続検討中。)
- 12. **県政情報を発信するスポークスマンの設置を**
県政の動きを的確に県民や県内外に情報発信するため、報道官のような人材を置くべき時代ではないか。(2005.10.13)
(22年度から、広報広聴課に広報戦略室を設置し、公募採用の報道官の役割をする広報監を置くことになった。)

景気・雇用対策を重点とした産業づくり

- 13. **正規雇用を増やす施策を**
非正規労働者の増大傾向に歯止めをかける姿勢を明確に示すべきだ。企業誘致を推進していくこととあわせて、正規雇用を増やすための誘導策が必要だ。(2005.12.7)
(県が正規雇用を推進していく観点から、県条例を改正し、企業が立地する際に、課税免除が受けられる要件である「5人以上の従業者の増加」を、「正規雇用者」に限定した。(2008.4.1))
- 14. **建設業の事業転換を促す施策を**
建設業が経済不況の中で経営危機にさらされている。このままでは、雇用も含め、地域経済が成り立たなくなってしまう恐れがある。人的資源やネットワークなどを活かした事業転換をできる方策を県施策として考えるべきだ。(2003.3.12)
(17年3月に土木部が策定した「建設業活性化指針」に建設業の業態(事業)転換について採り入れた。)
- 15. **BSE関連の酪農家負担軽減を**
BSE(狂牛病)問題により、と畜できないため、乳用種廃用牛(酪を搾らなくなった乳牛)が4月現在で、県内に約2,500頭も酪農家に滞留したままになっている。農家にとってえさ代(約1万円/月・頭)の経済的負担が大きい。と畜数の拡大を図るべきだ。(2002.6.17)
(答弁では、半年以上かかると言われていたが、この質問の結果、と畜数は大幅に拡大され早期に完了した。)

心豊かでたくましい人づくり

- 16. **子供たちに遊び場の設置を**
放課後、空き教室や保育所に隣接した施設をつくり、「子どものやかた」として、遊び場に開放すべきだ。(2001.5.10)
(子どもの居場所づくりとして、放課後子ども教室などとして実現した。)

- 17. **100年持つ高耐久の学校校舎の導入を**
学校の校舎は、平均30年くらいの耐用年数で建て替えている。ならば、3倍の金を出しても、100年持つ高耐久の校舎をつくれぬか。親子3代が同じ学舎で学ぶことは、子どもの心の醸成に大きく役立つ。同時に木造でセミナーハウスなどを作って、汗を流して掃除することも大切だ。(1999.3.11)
(木造校舎等の普及に弾みがついた。)
- 18. **小中学校での防犯実技訓練の徹底を**
大阪の池田小学校事件に関して、全小中学校で夏休み中に防犯実技訓練をやらせると答弁があったが、実施率が低い。本気になって、学校の安全を守るということを開きかけているんです。池田小の現場での先生と犯人の格闘のすさまじさを考えたたら、教育庁は何をやっているのか。(2001.10.15)
(その後、防犯実技訓練が徹底された。)
- 19. **子どもの医療費無料化の拡大を**
安心して子どもを産み育てるためには、医療費助成措置が重要だ。3歳未満児までの医療費無料化の現行制度を未就学児まで拡大すべきだ。(2004.12.6)
(平成17年(2005年)11月から未就学児まで、22年度から小学3年生まで更に拡大された。笠間市は独自に6年生まで拡大。)
- 20. **県立高校に医学部進学コースを設置すべき一医師不足解消へ**
県立高校に医学部進学コースを設置して、県内高校生の筑波大学医学部合格者数を増やしていくことが、医師不足を解消するための一番の近道である。今こそ医師不足解消という県政の最重要課題にマッチした教育政策のあるべき姿を考えるべき。(2009.12.1)
(22年度から、緑岡、竜ヶ崎一の2校で実施することとなった。)
- 21. **学校教育への医療・福祉教育の導入を提案**
将来、大人としても役立つ実学として医療・福祉教育は重要であり、本県の教育施策体系に、「命と暮らしを守る教育」という柱立てをして推進していくべきだ。(2010.3.17)
(22年度に改定するいばらき教育プランの中で、「命と暮らしを守る教育」を体系的に位置付けていきたいとの知事答弁があった。)

安全で快適な、安心して暮らせる生活環境づくり

- 22. **AED設置で心臓突然死を救え**
国内で年間約4万人、毎日約100人が「心臓突然死」で亡くなっている。心室細動が原因として多いと言われている。その細動を取り除く携帯型AEDを人が多く集まる場所に設置して、救命率を上げるべきだ。使用方法の講習会を開催して、県民がお互いの命を助け合う社会づくりを目指すべきだ。(2004.9.14)
(常井議員ら県議会環境商工委員会委員も救命講習を受け、AEDも飛躍的に普及した。)
- 23. **県職員・教職員の消防団入団の働きかけをすべし**
消防団員が減少している。県職員や教職員にも入団を働きかけるべきだ。子供たちに、生きた教材になる。郷土愛が芽生え、じわじわ次の世代までご近所の底力ができあがると思う。(2004.6.8)
(県が文書や面談によって働きかけた結果、県職員で72人、教職員で75人が消防団に入団している。(2005.4.1現在))
- 24. **安全安心な食のための体制整備を**



友部小学校の「いのちの授業」

- 進室」でも何でもいいが、農業の問題、肥料、土壌の問題に本格的に取り組んでいくという県民へのメッセージが必要だと思う。(2002.9.11)
(2003年度の組織改正で農林水産部に「農産物安全対策担当技佐グループ」が、保健福祉部に「食の安全対策室」が設置された。)
- 「食品偽装が相次ぐ中で、県議会「安心できる食の確保や提供等に関する調査特別委員会」における私の意見を受け、2009年4月から、2つの組織が、保健福祉部の「食の安全対策室」に一本化され、ワンストップ・サービスによる食の安全・安心への対応が実現した。)
- 25. **治安日本一を標榜するため、生活安全条例の制定を**
県政世論調査でも、「犯罪の起こりにくいまちづくりを促進すること」が一番重要となっている。茨城県は、治安日本一にすることを、県が自ら「生活安全条例」をつくって宣言すべきときではないか。(2001.12.12)
(茨城県安全なまちづくり条例が制定された。(2004.3.26))
- 26. **友部町の駅前通りを人にやさしい道路に**
人にやさしい道路づくりのマニュアルが必要だ。歩道の真ん中に電柱がある。オールカバを重ねると車道部が高くなり、歩行者に圧迫感がある。福祉の町を標榜する友部町の駅前通りはお年寄りなどにデリカシーのない道路になってしまっている。(2000.12.1)
(友部駅前通りの電柱移設、道路の路面切り下げ、透水性舗装がされた。)
- 27. **きちんとした河川管理を**
河川の中に竹林が繁茂して、川が流れにくくなり、洪水時に田んぼの冠水の原因になっている。伐採など、きちんとした河川管理をすべきだ。(2000.2.1)
(酒沼川などで、竹木伐採を実施、景観も良くなった。)
- 28. **未着工の都市計画道路について積極的な住民説明を**
友部町(当時)の上町大沢線など、都市計画道路の決定から、未着工のまま20年近くもなしのつぶての道路が1,000本を超えるほどいっぱいある。一人ひとりの地権者にとっては、非常に重要なことだ。住民にも積極的な説明が必要だ。(2003.3.12)
(県では、未着工の都市計画道路を全県的に見直す「再検討の指針」を策定した。)
- 29. **道路整備に合併特例債の活用を**
市町村合併を支援するために、合併特例債を活用した道路整備を進める手法を考えるべきだ。(2003.12.2)
(常井議員が初めて提案した合併特例債を活用した市町村道の整備手法は、市町村負担が約1割という全国初の画期的なものとして注目され、その後の道路建設にも大きく寄与した。)
- 30. **地域の歴史文化と道の関わりを**

県道沿いのオープンスペースを活用して、その地域と「みち」との歴史的、文化的な関わりなどを案内する看板を立てる「歴史と語らいのみちづくり」を提唱した。(2003.12.2)
(16年8月、土師地区(酒沼川沿い)のポケットパークに、「歴史と語らいの道・岩間街道」の碑が建立され、天狗諸生の騒動の舞台になった歴史が紹介された。地元の「土師百姓塾」の皆さんが清掃をしてくれている。)

県立中央病院の機能充実

- 31. **中央病院のMSW増員を**
中央病院では、患者の転・退院等の相談に対応するMSW(メディカル・ソーシャル・ワーカー)が1人しかいない。増員すべきだ。(2003.9.22)
(同病院のMSWは現在8人おり、地域連携室の中で活躍している。)
- 32. **中央病院に救命救急センターを設置すべき**
私は、中央病院に救命救急センターを設置するのが一番の悲願である。やはり、心筋梗塞とか、脳出血とかへの対応も含めて、全科について、県内をリードする医療技術をもった体制を充実すべきだと考える。(2001.3.13)
(中央病院は改革を進め、救急専門医の招へいや救急処置室の増設など救急受入体制を着々と整備し、年間13,000人を超える救急患者を受け入れている。現在、更なる救急体制の充実に向けて、救急センターを増設中である。救命救急センターの設置までもう一歩なので、もっと努力したい。)
- 33. **県立中央病院に産科と小児科入院の早期再開を**
中央病院の産科は平成17年4月から診療を休止し、入院診療は2008年6月から休止したままの状態だ。産科と小児科入院を早期に再開すべきだ。(2009.12.1)
(早期再開に向けて、引き続き努力していくと答弁あり。)
- 34. **救急患者の更なる受け入れに、まずはきちんとした体制づくりを行うべき**
中央病院の救急搬送件数が飛躍的に伸びている。今後、5,000件を目指すということだが、現場の医師にはかなりの負担が強いられ、もはや限界に来ているのではないかと。高い目標を掲げるのであれば、もっときちんとした体制づくりを行うべきだ。(2009.10.23)
(軽症の救急患者が全体の8割近くを占めていることから、笠間市立病院・笠間市医師会・中央病院が連携して、2010年4月から、新たな救急医療体制を整備した。中央病院から、医師等を派遣。)

地元笠間市に夢と活力をはぐくむ施策を推進

- 35. **総合流通センター予定地の管理徹底を**
(旧名)総合流通センター予定地が荒れ放題になっている。通学路もあり、防犯上も危ない。たばこの火一つ投げ込まれたら、燃え広がったらどうしようもないだろうと、地元の方々が心配している。借金したって、きちんと管理すべきだ。もう一度現場に行ってみてください。(2000.2.15)
(残念なことに、直後の2000年3月8日に大火災が発生してしまった。その後も2回火災発生。道路際の草木伐採などを定期的に実施した。)
- 36. **茨城中央工業団地(笠間地区)に農産物直売センターの設置を**
茨城中央工業団地笠間地区に大規模農産物直売センターの設置を提案する。不況下で土地処分が難しい時期に塩漬けしておくより、地域資源を生かした有効活用を先行して考えるべき。そういう新たな政策発案こそ、この時代、この場所に求められている。(2009.12.1)(2010.3.17も同旨の質問)
(進出意欲のある事業者がいれば、同団地は候補地の一つになると知事答弁があった。)
- 37. **茨城中央工業団地(笠間地区)の買収済用地を農地・市民農園・イベント等として暫定利用すべき**
茨城中央工業団地笠間地区は、用地買収開始後14年が経過している。このまま年間3億円を超える金利を支払いながら土地を塩漬けにしておくより、企業誘致が実現するまでの間、農地や市民農園・イベント等としての有効活用を考えるべきだ。(2010.3.17)
(暫定利用について、積極的かつ柔軟に対応していきたいと答弁があった。)
- 38. **県畜産試験場跡地の利活用に住民意見を反映すべき**
県畜産試験場跡地の利活用については、何よりも県民や住民の意見を良く聴いて、それを基に県が素案を作成して、利活用計画の概要が県民に見えるようにすべきだ。(2005.6.16)
(住民の意見を聴く会を開催(2007.11.13)し、県の素案を策定(2008.3)した。その後、周辺地域の今後のあり方についての検討結果をまとめた。(2008.11))
- 39. **県畜産試験場跡地の公園としての暫定利用を**
県畜産試験場跡地は移転から10年が経過した今でも、恒久的な利活用にほとんど進展がない。利活用の全体構想の策定が必要だ。また、跡地の一部を公園として地域住民に利用させるべき。(2009.12.1)
(22年7月から、暫定的に公園(広場)としてオープンした。「みどりの広場」)
- 40. **県畜産試験場跡地を医科大誘致の第一候補に**
本県の医師不足で最も致命的なのは300万の人口を要しながら、県内の医師教育機関が筑波大学しかないことだ。医科大学の誘致が必要と考えるが、畜産試験場跡地をこの第一候補地とすべき。(2009.12.1)
(「現時点でどこか第一候補地と決めてしまうことはせず、誘致場所は、相手方の意向や条件を十分確認して、希望にかなうところを積極的に提供・調整していく考えである」との知事答弁があった。)
- 41. **友部病院の改築に、地元稲田みかげ石や笠間焼の活用と、県産材を使用した木造施設の建設を**
県立友部病院の全面改築にあたって、地域産業のシンボルともいべき地元の県産石材と笠間焼を採り入れるべき。森林湖沼環境税を県民に理解してもらうためにも、積極的に県産木材を活用して、患者にも優しい木造施設の建設を提案した。(2008.12.8)
(外来入り口付近への「笠間焼レリーフ」の設置と、交流テラス壁面等への「県産みかげ石」が使用されることとなり、また、森林湖沼環境税を活用して、県産材を利用した木造施設の思春期デイケア棟が建設されることとなった。筑波海軍航空隊の遺品などの常設展示施設としても、一般県民に利用される予定である。)